



# 園だより

文京区立第一幼稚園  
令和2年度 10月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

## 園は共に育ち合う場

副園長 和島千佳子

いつの間にか朝夕涼しくなり、屋外で過ごすのが心地よい季節になりました。幼稚園の園庭では、虫探しや色水作り、石集め、砂場で水を使っのダイナミックな遊び、鬼遊びやリレーなど、子供たちがそれぞれ遊びを始め、楽しんでます。

二学期になり、子供たちの様子が一学期とは少し変容しています。

年少組では、気に入った遊びを見付け、興味やペースの合う友達といることが楽しいようです。先生と一緒に2階へ行って年長組の遊びのお客さんになったり、玄関のウサギを見に行ったり、という機会を設けたことがきっかけとなり、赤組保育室を拠点に少しずつ園内での行動範囲を広げています。そこで出会った年中児や年長児のしていることを興味深く見る姿も増えています。

年中組では、一人一人が行動や言葉で自分なりの思いをしっかりと表すようになってきました。友達と思いがかみ合って「一緒に遊ぶと楽しい」と感じる反面、自分の思いが通らず悲しい気持ちになる場面も増えています。そのようなとき、教師が互いの思いを確かめながら橋渡しをし、「先生に思いを分かってもらえた」と安心し「友達には自分と違う思いがあるのだな」と気付けるようにしています。

年長組では様々な遊びが繰り広げられていますが、そのひとつにお祭りのイメージで展開している遊びがあります。2学期が始まってほどなく、たこ焼きや焼きそばなどを売る店ができ、「お客さんに来てほしい」と年少児や年中児を呼んでいました。その後もお店で売る食べ物の種類が増えたり、9月後半にはお神輿を作って園内を練り歩いたりしていました。一人の思い付きが友達の「いいね」「じゃ、こうしたら？」につながるよう、教師が幼児同士の伝え合いを促しています。また、幼児一人一人の楽しかったことや「もっとこうしたい」という思いや考えを捉え、遊びが広がり深まるように、幼児と一緒に物や場所の準備や整理をしています。そのことから、断続的に遊びのイメージが続き、互いに刺激を受け合って、一緒に遊びを進めています。

それぞれの様子を見るにつけ、実体験や人との関わりが子どもたちの成長に欠かせないものであり、園は幼児が「共に育ち合う場」として大切なのだと改めて思います。

10月11日(日)は運動会です。指ヶ谷小学校体育館をお借りして学年ごとの開催ですが、保護者の方が一堂に会し、園での幼児の生活の一端をご覧いただく今年度初めての機会です。運動会当日はいつもと違う特別な雰囲気も漂いますが、日常の遊びや生活の延長線上の一日でもあります。

一人一人にキラッと光る個性があります。それが集まり、キラキラ輝く運動会。自分の力を出して思い切り走ることや音楽に合わせて体を動かすことなど、それぞれの輝きをご覧いただき、保護者の皆様にとっても、子供の「今」を共に見ること、子供たちの成長を感じ共に喜び合う場となりますように。そして、運動会で頑張ったことが自信となり、2学期後半の園生活がさらに充実したものとなるようにと願っています。

